



自由に生きる

中尾 順子
(神学科 第48回卒業生)

幼い頃から割合自由に思うように生きて来た。親の反対を押し切り中学で陸上競技を始めた。お金がないから進学は諦めるようにと言われたが、進学した。経済的には不自由したが、結構楽しい学生生活だった。結婚もして二人の娘も授かった。

娘が独立したので、神学校へ行くことにした。娘もいなくなり、私もいなくなり官舎にはパートナーがひとり残された。私はいないので、いなくなつてからの事は分からない。ずっと四人で暮らしていたのが、てんでばらばらになり四人は自由になった。

神学校での5年間は全く自由で学びのときも楽しかった。まず経済的に困らなかったのも、いろいろな所へも出かけることができた。遊び友達もでき、飲み友達も出来、三年生で卒業必須科目はほぼ取れたので、4、5年生は図書館で本を読んだり、映画を観て過ごすことが多くなった。

卒論は旧約聖書『善悪の知識の木から木の実を食べてはいけない。死んではいけないから』創世記2章・3章の聖書箇所より『知恵と死の関係について』で書いた。知恵と死がどのような関係があるのか調べたが、結局結論は人間の永遠に生きていとの希望と、それが叶えられない現実とがあるのが判明したくらいだった。あまりにも一つの事を探求して正気を失って死んだりするケースがあるがそれなのかなと思ったりした。今でもその関係については宿題として私の頭の中の片隅に居座っている。

他の神学生はどのような学生生活を送られたのか

は詳しく知らないが、私にとっては楽しいだけの学生生活だった。農業の経験はなかったが、食物が育つ過程を知ることができたし、旬の物を食べ続ける楽しさも覚えた。

つきみ野伝道所(現・林間つきみ野教会)や寿町でのアルバイトも私の人生の中で重要なことであつたと思つている。卒業後は生田教会の伝道師をしながら正教師の資格を取つた。卒業と同時に今までボランティアで関わつていた障害者の通所施設で勤務しながらの牧会であつた。

卒業して10年程川崎に住み、ふるさと唐津に帰ることになり、相知伝道所おうちでんどうしょの主任となつた。牧師館が少し傾いており、ボール等がコロコロと転がつた。20人程の大人や子どもに空手を教えたり、小学校や中学校に勤務したり、常に子どもたちがそばにいた。礼拝堂で塾の子どもや空手の親子がお泊まり会をする事も多く、常に子どもの笑い声が聞こえていた。一緒に狭いお風呂に入った子どもたちは社会人になつた子もいるだろう。

現在は福岡市内に住み、西鉄天神大牟田線大橋駅から直ぐのマンションに娘や孫たちと暮らしている。私たちは6階、娘たちは7階。三番目の孫は立命館大学に籍を置いている。私は学童保育の先生をしながら、通学路での旗振り、子ども食堂、戦争反対、原発反対等をしている。相変わらず子どもたちがそばにいる。

隠退教師なので自由に教会に行つている。頼まれば説教もする。昨年は5回程説教をした。本箱からは旅行や料理や音楽の本が消え、神学書や辞典に変わってしまった。

しかし今年78歳。説教依頼はないだろう!あつてもよし、なくてもよし。死ぬまで自由人で過ごしたいと思つている。



絵葉書「農場の春」



農村伝道神学校(農伝) 支援コンサート10年

2015年、パイプの全てが木製というオランダ Henk Klop 氏制作のパイプオルガンがまぶね教会に奉献されたと聞き、後援会では当時農伝2年生の表見聖さん(オビエド市アシジの聖フランシスコ教会オルガニストを歴任、現在三・一教会牧師)や、バロック音楽アンサンブルのムジカ・フェリチタの協力を得て農伝支援コンサートができなにか働きかけてみました。まぶね教会(当時、石井智恵美牧師)から礼拝堂提供の協力をいただき、2016年3月に支援コンサートを開催して大勢の皆さまにおいでいただきました。それ以降、まぶね教会での演奏会は2020年のコロナ禍による中止を除くと毎年開催されています。2018年1月には鶴川教会でも開催されました。今年3月1日(土)にまぶね教会で行われた支援コンサートも、支援して下さる皆さまと神学生が出会える場となりました。心から感謝をしています。まぶね教会の林牧師に「農伝と見たい夢」をお寄せいただきました。



林巖雄牧師よりご挨拶

農伝と見たい夢

林 巖雄 (まぶね教会牧師、農村伝道神学校非常勤講師)

昨年の夏、親しい神学者・牧師のカップルのところに聖書学者で牧師の友人と一緒に泊まりに行き、神学議論というか、キリスト教とか神学とか、お茶、ケーキ、夕食、朝食を共にしながら、というか、カップルにごちそうになりながら、四人で何時間も楽しくおしゃべりをしました。ひさしぶりに靈的に満たされた時間でした。

牧師や神学者でなくてもまったく構わないのですが、まあ、でも、農村伝道「神学」校ですから、広い意味で「神学」、聖書、キリスト教に関心ある人が、関心に沿った楽しく話をできる時空があればよいなあと思っています。

講師や講演者がいて数十人で聴き、フロアから数人が質問をする形式もよいのですが、数人のグループでひとりひとりが十分に話したり聴いたりするのも楽しいと思います。ZOOMでも良いですね。「神学」ですが、学会のような厳しさはなく、ゆるやかに交わることができる

と良いと思います。

それから、戦争、差別、貧富の格差、地球の生態学的危機などをめぐって、それが現在どれほど深刻に人や世界を苦しめているか認識し、これに抗いイエスに従い生きていくには、どんな道があるのか、そういうことを考える場も欲しいです。これは、時には専門家的な方からも学びたいですが、やはり、それに基づいて語り合いたいですね。

このようなことは、農伝の既存の授業の中でもかなり

実現されている部分もあると思いますが、「学生」向けだけでなく、卒業生、いや、卒業生にかぎらず、キリスト教に関心のある人びと、牧師向けのプログラムがあればうれしいなと思います。わたし個人でも企画、呼びかけをしたいところですが、あまり吸引力がなく、農伝の伝統が力になってくれるといいなと思います。

この危機の時代、世界を、しかし、ぎゃくに神学や聖書、キリスト教の良質の部分を引き上げさせながら、希望をもって、農伝とともに進む夢を見ている。

農伝は宝の山

上杉 理絵 (神学科第70回卒業生)

農伝の地に足を踏み入れたとき、「ここは宝の山だ!」と思いました。以前から食べられる野草や、野草で作る酵素ジュース作りなどの学びをしていたのですが、身近な場所は車の排気や犬の散歩コースなどでの採取は難しく、なかなか実践できずにいました。農伝はそのような心配がありません。野草木茶(枇杷の葉、桑の葉、柿の葉、イチゴの葉、ヨモギ、ドクダミ)を農伝バザーなどで販売をしましたが、枇杷の葉、ドクダミは、リカーに漬けてチンキを作って肌に塗ることも出来ます。農伝のヨモギはとても柔らかく、お茶だけではなく、薄い枕や布団にすることも出来ます。朴葉味噌で有名な朴の木もあって若い緑の葉でご飯を包んで温めると良い香りがします。山茶花の花で酵素ジュースを作りましたがとても綺麗な色になりました。食べられる野草(ヤブガラシも美味!)があつたり、切り出して積んである木の山に白きくらがが生えていたり、元栗林に生えているコンフリーは現在は毒性が認められて食用にはならないですが、とても良い液肥を作ることが出来ます。これらの場所が守られることを心から願います。

現在は、礼拝堂の隣にあるスペースに手を入れていません。在学中から紫陽花が咲いていたのは知っていたのですが、2023年の夏頃に紫陽花と呼ばれている気がしました。行ってみると、紫陽花の影もなくジャングルのように

うになっていました。絡まっている藪を分け、笹竹を切り、背丈ほどある草を抜いていくと、紫陽花がずっと奥まで咲いていました。それから定期的に通って手を入れていきます。この場所に紫陽花が咲き乱れるように願っています。

先日は地に這っているノイバラを見つけました。若竹を結び合わせてアーチ状にして誘引しました。5月には小さな白い花を、冬には赤い実を見られるでしょう。

このように何年経っても、新しい発見があります。これからも農伝に埋もれているお宝を見つけていきたいと思っています。



礼拝堂横 2023年10月 台風・大雨のあと



礼拝堂横 2024年12月 藪が取り払われ、紫陽花が見えてきました



ドライフラワーづくりのために採取した花束

農村伝道神学校(農伝)の野草や産物は通常採取できません。ご希望のときは「農伝散歩」について、お問い合わせください。農村伝道神学校



楽器紹介 右奥:パイプオルガン 正面:チェンバロ



写真は本年3月1日開催の農伝支援コンサートより 学生紹介

卒業生はいま!

天使をもてなす町の教会として

別府野口教会伝道師 清野 量 (せいりのりょう 神学科第72回卒)



別府野口教会は昨年の7月に創立130周年を迎え、旧教派では数少ない聖公会のグループに属し、会堂は大正~昭和初期の献堂当時の姿を今も守っています。別府市は日本の都市では珍しく、明治期に油屋熊八(あぶらやくまはち)という一人のプロテスタントの商人が『旅人をもてなすことを忘れてはいけません。そうすることで、ある人たちは、気づかずに天使たちをもてなしました。』(ヘブライ人への手紙13章2節)という聖書の御言葉を旨に、アメリカ式観光業で国際都市として発展させた経緯があります。

別府市は小さな町ですが、立命館アジア太平洋大学など三つの大学・短大があり、多くの留学生が生活し、大学卒業後には別府に残って生活する人も多くいます。特にイスラム圏の国の人々が多く、イスラム教のモスク(教会)も海岸の国道通り沿いにありますが、このムスリムの墓地問題が別府周辺の人々の課題となっています。ムスリムはその終末論から、伝統的に土葬が基本ですが、彼らが求めている土葬墓地を認可した自治体が後からそれを取り消すなど、地域との軋轢が生じています。同じアブラハムの神を信仰する者として、天使をもてなす町の教会の牧会者として、この墓地問題に私も取り組んでまいりたいと思います。

2024年度 農村伝道神学校後援会会計報告 2025年1月16日- 2025年4月10日 ()内の数字は回数で、金額はその合計です。

Table with 4 columns: 後援献金(団体), 後援献金(個人), 後援献金(個人), 後援献金(個人). Lists various churches and individuals with their respective contribution counts and amounts.

2024年度農村伝道神学校後援会会計報告

2024年4月1日～2025年3月31日現在

Table with 8 columns: 収入の部 (単位:円), 支出の部 (単位:円). Rows include 後援献金, 記念献金, ひとつぶ献金, 支援コンサート, 支援グッズ, 繰越金, 神学校献金, 通信費, 印刷費, 事務費, グッズ経費, その他, 振替手数料, 繰越金.

事務局だより 2024年度も尊い献金を賜り感謝をいたします。農村伝道神学校に700万円の献金を献げることができました。通信費等が上がったため多くの献金を大変うれしく思っています。3月に卒業生2名を送り、4月に新生5名を迎えて今年度も始まりました。お祈りと献金とともに農伝ボランティアや後援会実務委員会へのご協力をよろしく願っています。なお今回発行からカラー版にいたしました。印刷経費は変わりません。長谷川りょう子



農伝ボランティアのオリエンテーション 2025年4月 農場にて

発行 農村伝道神学校後援会 会長 島 しづ子 事務局長 長谷川りょう子 〒195-0063 東京都町田市野津田町 2024 TEL 042-735-5775 FAX 042-735-5711 ・Eメール 後援会 kouenkai@noden.ac.jp 農村伝道神学校 noden@pony.ocn.ne.jp ・ホームページ https://noden.ac.jp/ ・郵便振替口座 00140-7-635524 加入者名 学校法人鶴川学院